



安全データシート

ポリ塩化アルミニウム

作成日1998年 6月 1日

改定日2016年 6月 1日

1. 製品及び会社情報

製品名:	ポリ塩化アルミニウム
会社名:	タイキ薬品工業株式会社
住所:	福岡市東区東浜一丁目9番4号
担当部門:	製造部 技術製品企画室
電話番号:	092-641-5736
FAX番号:	092-641-4440
メールアドレス:	info@taiki-y.co.jp
緊急連絡先:	製造部 技術製品企画室
推奨用途及び使用上の制限:	凝集剤
整理番号:	SDS-5000

2. 危険有害性の要約

GHS分類

人の健康に対する有害性

絵表示又はシンボル:

注意喚起語:

危険有害性情報:

注意書き:

本品に関する信頼性のあるPriority-1のデータがないため、GHS分類が出来ず、現時点で「物理的及び化学的危険性」、「人の健康に対する有害性」、「環境に対する有害性」の全項目（「眼に対する重篤な損傷性／刺激性」を除く）は、「分類対象外」、「分類できない」、又は「区分外」である。

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2B

なし

警告

軽度の眼への損傷

【安全対策】

他の容器に移し替えないこと。

適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。

ヒューム、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

環境への放出を避けること。

【応急処置】

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。意識のある場合には水をコップで1～2杯飲ませ、吐出させる。

皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

吸入した場合：被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

目に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

皮膚に付着した場合、目に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。

ばく露した時、気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

漏出物は回収すること。

【保管】

耐腐食性、耐腐食性内張りのあるもの、又は適切な材料の容器で保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

物質

単一製品・混合物の区別:	混合物
化学名又は一般名:	ポリ塩化アルミニウム
別名:	パック、塩基性塩化アルミニウム
化学式又は構造式:	$[Al_2(OH)_nCl_{6-n}]_m$ (ただし $1 \leq n \leq 5$, $m \leq 10$)
CAS No.:	1327-41-9
濃度又は濃度範囲:	塩基性塩化アルミニウム; 20.0~23.0 重量% Al ₂ O ₃ として ; 10.0~11.0 重量%
官報公示整理番号(化審法・安衛法):	(1)-12(塩化アルミニウム)、(1)-17(水酸化アルミニウム)
GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物:	情報なし

4. 応急措置

吸入した場合:	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合:	汚染された衣類、靴などを脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水又は微温湯を流しながら洗浄する。外観に変化がみられ、痛みが続く場合は直ちに医療措置を受ける手配をする。
目に入った場合:	直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。その際は瞼を開き水が全面にゆきわたるように行う。医師の手当てを受ける。 コンタクトレンズを使用の場合、取り除いて洗浄する。
飲み込んだ場合:	飲料水を多量に飲ませた後、直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
予想される急性症状及び遅発性症状:	データなし
最も重要な兆候及び症状:	データなし
応急措置をする者の保護:	汚染された衣類や保護具を取り除く。救助者が有害物に触れないよう手袋を使用するなど注意する。
医師に対する特別注意事項:	データなし

5. 火災時の措置

消火剤:	周辺の火災に適切な消火剤を使用する。 この製品自体は、燃焼しない。
使ってはならない消火剤:	特になし。
火災時の特有の危険有害性:	消火作業の場合は必ず保護具を着用する。
特有の消火方法:	付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。 速やかに容器を安全な場所に移す。 移動不可能の場合は、容器及び周辺に散水して冷却し、容器の破壊を防ぐ。
消火を行う者の保護:	消火活動では、耐熱手袋、ゴーグル型保護眼鏡を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	作業の際は適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したりしないようにする。 風上から作業し、風下の人を避難させる。 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
環境に対する注意事項:	漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。 流出した製品が河等に排出され、環境へ影響を起ささないよう注意する。 大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
回収、中和、封じ込め及び浄化方法と機材:	漏出源を遮断し、漏れを止める。少量の場合は、乾燥砂、土、おがくず、ウ

エス等に吸収させて、密閉出来る空容器に回収する。大量の場合は、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策:

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気:

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱注意事項:

取扱い後はよく手を洗いうがいをする。

火気注意。

飲み込みを避けること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

眼に入れないこと。

『10. 安定性及び反応性』を参照。

接触回避:

保管

技術的対策:

耐腐食性の内張りがされているもので、適切な容器で貯蔵すること。

混触危険物質:

『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管条件:

耐腐食性、耐腐食性内張りのあるもの、又は適切な材料の容器で保管すること。

容器包装材料:

最初の容器内でのみ保管すること。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度:

作業環境評価基準に設定されていない。
(平成7年3月27日労働省告示26号)

許容濃度

(暴露限界値、生物学的暴露指標):

日本産衛学会(2012年版):

水溶性塩の AIとしてのデータ

該当しない

ACGIH(2010年版):

該当しない

設備対策:

取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設ける。

保護具

呼吸器の保護具:

必要に応じて保護具を着用すること。

手の保護具:

保護手袋を着用すること。

眼の保護具:

眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具:

保護衣を着用すること。

衛生対策:

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:

常温で無色ないし黄色がかったうすい褐色の透明な液体。

臭い:

無臭

pH:

約 3.5~5(1重量%溶液)

融点:

約 102~106℃

凝固点:

-12~-20℃

沸点、初留点及び沸騰範囲:

102~106℃

引火点:

不燃性

爆発範囲:

不燃性

蒸気圧:

データなし

蒸気密度(空気 = 1):

データなし

比重(密度):

約 1.19~1.21(20℃)

溶解度:

水に易溶。

オクタノール/水分配係数:

Log Pow=1.26(AlCl₃)として

自然発火温度:

不燃性

分解温度:

データなし

臭いのしきい(閾)値:

データなし

蒸発速度(酢酸ブチル = 1): データなし
 燃焼性(固体、ガス): 該当しない
 粘度: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性: 通常の保管及び取扱においては安定である。
 危険有害反応性可能性: 製品は強熱して蒸発乾固させると塩酸ガスを発生する。
 避けるべき条件: 高温。鉄やステンレス。
 混触危険物質: 次亜塩素酸ソーダと混合すると有毒な塩素ガスを発生する。
 危険有害性のある分解生成物: 塩酸ガス

11. 有害性情報

急性毒性(経口): 経口 マウス LD₅₀ 12,790mg/kg(72時間)
 腹腔 マウス TDL₀ 1,920mg/kg(72時間)
 経口 ラット LD₅₀ 3,450mg/kg(RETCS)
 急性毒性(経皮): データなし
 急性毒性(吸入:気体): データなし
 急性毒性(吸入:蒸気・ミスト): データなし
 皮膚腐食性・皮膚刺激性: 皮膚に軽度の刺激性がある。
 眼に対する重篤な損傷・刺激性: 眼に軽度の刺激性がある。
 呼吸器感作性・皮膚感作性: データなし
 生殖細胞変異原性: データなし
 発がん性: データなし
 生殖毒性: データなし
 特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露): データなし
 特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露): データなし
 吸引性呼吸器有害性: データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 データ不足のため分類できない。
 水生環境慢性有害性 データ不足のため分類できない。
 生態毒性
 魚毒性: ヤマメ LC₅₀:565mg/L
 ヒメダカLC₅₀:725mg/L
 残留性/分解性: 知見なし
 生体蓄積性: 知見なし
 土壌中の移動性: 知見なし
 他の有害影響: 知見なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物: 消石灰、炭酸カルシウム、ソーダ灰等を加えて中和した後、廃棄する。
 都道府県知事等の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。
 汚染容器及び包装: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 記載なし
 国連番号: 記載なし
 国内規制 記載なし

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
 重量物を上積みしない。
 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。
 他の危険物のそばに積載しない。

15. 適用法令**労働安全衛生法:**

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9)【37 アルミニウム水溶性塩】

水質汚濁防止法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9)【37 アルミニウム水溶性塩】

水道法:

指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)【44 アルミニウム及びその化合物】

海洋汚染防止法:

有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101)【33 アルミニウム及びその化合物】

外国為替及び外国貿易法:

有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)【123 ポリ塩化アルミニウム溶液】

輸出貿易管理令別表第1の16の項【HS2827 塩化物、塩化酸化物、塩化水酸化物、臭化物、臭化酸化物、よう化物及びよう化酸化物】

16. その他の情報**参考文献**

- 1) 日本ケミカルデータベース(株) 化学物質法規制検索システム
- 3) 薬品新聞社 化学品取引要覧(2001年版)
- 4) 国立環境研究所ホームページ、化学物質データベース(<http://w-chemdb.nies.go.jp/>)
- 5) 国立医薬品食品衛生研究所(NIHS) 国際化学物質安全性カード(ICSC) (<http://www.nihs.go.jp/ICSC/>)
- 6) 神奈川県環境科学センター 化学物質安全情報提供システム (<http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp>)
- 7) 2012年版16112の化学商品 化学工業日報社
- 8) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 化学物質総合検索システム GHS分類結果データベース (<http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>)
- 9) Syracuse Research Corporation (<http://esc.syrres.com/interkow/interkow.exe?CAS=->)

記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データ等にもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

また、注意事項は通常の手配を前提としたものなので、特殊な取扱いの場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。